
決して弟子を取らない剣士

星喰蛇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

決して弟子を取らない剣士

【Nコード】

N9752S

【作者名】

星喰蛇

【あらすじ】

あるところに1人の天才剣士がいた。
彼が決して弟子を取らない理由とは？

(前書き)

最近個人的な都合でめっきり小説から離れていましたが、ふとこの物語を思いついて書いてみました。

いつの時代、どこの国で起きたかも分からぬ物語。

町の片隅に、ある1人の天才剣士が住んでいた。

歳は50前後の男。

剣1本で如何様にも身を立てることが出来る程の腕を持ちながら、売れない絵を描いて貧しい暮らしをしている。

時間が空けば剣の鍛錬ばかりしている事と、絶対に弟子を取らない事で有名である。

また、彼の家には他にも若い男が1人住んでいた。

孤児らしいが、理由あって預かっているのだという。

そんなある日、天才剣士のもとに弟子入りを志願する1人の青年剣士がやって来た。

涼やかな顔をしているが、剣の道を究めんと内なる炎をたぎらせる熱血漢である。

だが、天才剣士はこの青年の願いを頑として聞き入れず、それどころか「一刻も早くこの場を立ち去り二度と顔を見せないでくれ」とまで言ってきた。

今まで天才剣士に弟子入り志願をした者は数知れないが、皆同様の事を言われ腹を立てて帰っていった。

ところが今度の青年はなかなか諦めることをしなかった。

毎日毎日天才剣士のもとを訪れては「私を弟子にして下さい」と頼み込んでくるのである。

それは雨の日も雪の日も続いた。

これには天才剣士も少しばかり参ったが、どうやらこの青年ははるばる遠い地からやってきた者らしいので、宿に泊まるお金さえ尽きれば諦めて帰るしかないだろうと考えた。

その時は彼が帰郷するために必要なお金を手渡してやろうと、準備もしていた。

だが、そんな思惑は外れた。

青年は手持ちの金が尽きると、宿に無理を言っ て住み込みの仕事 をさせてもらいながら天才剣士のもとへ通いつめるようになったのである。

そんなある日の昼。

青年がいつものように天才剣士の家を訪ねると、初めて中に招き入れてもらった。

家の中には誰もおらず、一緒に暮らしている若い男は出かけており夜まで帰ってこないという。

奥の一室に通され、そこで向かい合って座った。

「君が余りにも諦めが悪いものだから、今日はひとつ話しをしよう」

「それは何の話でしょうか？」

「まあ、聞きなさい。」

これは今から何十年も前の話だが。

とある青年剣士が剣の道を究めようと、当時国内で右に出る者はいない天才剣士に弟子入りをした・・・」

その天才剣士は余り多くの弟子は取らず、才能を認めたわずか数人の弟子にのみ剣の技を伝えた。

ところが、剣の修行も最終段階に入りその後は各々精進してゆこうと誓いを立てようとしていた、ある日。余りに唐突な出来事が起きた。

天才剣士が、ある卑劣な剣士の罠に落ち命を落としたのだ。

その剣士は、自分が正々堂々と天才剣士を破ったことを世間に吹聴し、国内最強剣士の称号をたった一晩で手に入れた。

噂は瞬く間に広がり、沢山の弟子が彼のもとに集まった。

彼は弟子達に適当な修行をさせ、自分は殆ど何もせずとも金が集まってくるようになった。

残された天才剣士の弟子達は、卑劣な剣士が師に勝ったことがどうしても納得いかなかった。

尋常に勝負をした上での結果であれば恨み言などありはしないのだが、師の敗北には何か裏があるような気がしてならなかった。

そこで弟子達は卑劣な剣士の近しい人間に近付いた。

時間をかけて警戒心を解き、酒に酔わせるなどしてようやく口を割らせたところ、師が汚い罠にかけられたという事実を知ったのだ。

弟子達は怒りに燃えた。

師の敵討ちを誓ったのである。

そして偶然にも師の没後丁度1年が経ったその日。

弟子達は卑劣な剣士が1人になる機を得て、勝負を挑んだ。

弟子達の中でも最も腕の立つ1人が1対1の戦いを申し込み、他の弟子達は敵の逃げ道を塞いだ。

この勝負を受けざるを得ない状況に追い込んだのである。

勝負の行方は、剣を構える前から明らかであった。

卑劣な剣士は元々大した腕の持ち主でなく、その上最近はずっと鍛錬を怠っていたため益々腕は鈍っている。

師亡き後も剣の腕を磨き続けた弟子達の敵ではなかった。

結果、弟子は師の仇を取ることに見事成功した。

国内最強剣士の称号を持っていた卑劣な剣士を切り伏せた青年剣士は、一夜にしてその称号を手にした。

師の仇がそうしたのと同じように。

一方、卑劣な剣士の弟子達は皆、師が死ぬと散り散りになっていった。

実はこの時既に多くの弟子が愛想を尽かし始めていたのだ。

彼らの中に師の仇を討とうとする者など1人もいなかった……

「大変恐縮なのですが、その話が一体なんだというのですか？

今の話が、貴殿が私を弟子にして下さらない事と何か関係があるのですか？」

「まあ、話は最後まで聞きなさい。

君。復讐というものはだね、実に悲しい事に連鎖するのだ」

「は？」

「実は・・・これは絶対に秘密だよ。

実はだね。国内最強の称号を得た青年剣士は、現在卑劣な剣士の忘れ形見と一緒に暮らしている」

「それは!？」

「・・・何故です？」

「その子供が、父親の仇を討とうとするのを待っているのだ」

「わざわざ殺されるのを待っているのですか？」

「君。現在国内最強の天才剣士が仮に弟子を取ったとしようじゃないか。

そしたらいつかその弟子は、卑劣な剣士の子供によって殺された師の敵討ちをしようとするのではないだろうか？」

「・・・」

「だから、その天才剣士は決して弟子を取らない。

同じ理由で結婚もしないようにしているのだよ。

幸いと言って良いのか、彼には親も兄弟もないことだしね」

この話を聞いた青年剣士は、天才剣士に弟子入りすることを諦め

帰郷したのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9752s/>

決して弟子を取らない剣士

2011年10月5日23時07分発行